Acanthus

金沢大学広報誌｜アカンサス

【特集】知の継承と知の創造−金沢大学創基150年− P.2 / 【連載】金沢大学の地域連携レポート❷ P.18 / 【緊急特集】巨大地震に備える P.20 / 学生インタビュー P.21 / 金沢大学同窓会情報 P.22 / サークル紹介 P.23 / ニュース＆トピックス P.24 / DATA NOTE P.26 / イベントカレンダー P.27 / ぶらりキャンパスめぐり P.28

特集

知の継承と知の創造

−金沢大学創基150年−

No.22

知の継承と知の創造

特集

- 金沢大学創基150年 -

2012年，金沢大学は源流となる加賀藩彦三種痘所から数えて150年の節目を迎えました。これまでの志に思いを馳せ，これからの未来を切り拓くために，本学のアイデンティティを世界に向けて発信し続けます。

挑戦の150年、金沢大学の歩み

金沢大学は、1862（文久2）年に開設された加賀藩彦三種痘所を源流とし、これをよりどころの「創基」としています。2012年は、それから150年にあたる節目の「創基150年」です。

第二次世界大戦後、日本海側唯一のナンバースクールであった第四高等学校、石川・金沢高等・石川青年の各師範学校、種痘所の流れを引き継ぐ金沢医科大学、金沢工業専門学校を統合して誕生した新制金沢大学は、前身校の高い志と大胆な挑戦を受け継ぎ、「知の継承と知の創造」にまい進してきました。

金沢から世界へ未来を創造

金沢大学は、大学憲章で「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」を掲げています。創基150年記念事業のキーコンセプト、〈先魁〉としての人材養成、他なる生命・存在との〈共存〉、革新的な知の〈創造〉は、この理念を具体的に確立するものです。

「学都」金沢に育ち、金沢を基点にして生きて行く。「東アジアの知の拠点」として、国や民族の枠を超え、世界に向けて情報を発信し、人類の持続的な発展に資する。金沢大学はさらなる飛躍をめざします。

金沢大学
創基150年

創基150年記念事業シンボルマークは，金沢大学が150年の歴史から150年先の未来へ力強く飛躍するイメージでデザインされました。紺色が〈先魁〉，緑色が〈共存〉，紫色が〈創造〉を表しています。

CONTENTS

4 次の150年，知の継承と知の創造に向けて
8 先魁 次代を担う人材を輩出する「金大メソッド」
10 共存 「社会貢献」を使命とし，持てる資源を還元
12 創造 知の融合による知の創造で，未来を切り拓く
14 歴史と文化が薫る学びのまち・金沢
15 原点と未来に思いを馳せ，新たな150年へ
16 金沢大学を彩る人びと

次の150年，知の継承と知の創造に向けて

加賀藩彦三種痘所から数えて100年目に入学し，立場を変えながら50年，金沢大学を見つめ続けてきた中村信一学長。「金沢大学」について伺いました。

中村 信一 学長
NAKAMURA Shin-ichi

これまでの150年とアイデンティティ

150年というと長いようですが、そうではないと思います。1世代30年とすると、150年前は4世代前。私の場合、父から「私の祖父のころはこうだった」と聞くことができた時代です。19世紀後半、明治維新を経て近代国家となった日本が日清・日露戦争を経験し、国際社会に組み込まれた時代。自分で認識できる、そう遠くない昔と言えます。

その間、社会ではどれだけ多くの進歩があったでしょうか。種痘所を例に取れば、ワクチン投与によって天然痘は撲滅されました。何千年と人類を苦しめてきた病気が100年や200年で消えたのですから、ほんの少しの間にものすごく発展した、というのが実感としてあります。

これまでの日本社会には西洋社会というモデルがありました。日本がめざす「国のかたち」が明確にあり、大学もそれに向かって一所懸命に欧米の知識や技術を吸収し、社会に発信してきました。いわば大学も、その大きな枠組みの中に位置づけられた存在だったと言えます。もちろん、その中で大学それぞれの文化なり、「らしさ」があったでしょう。

新しい価値を見いだすこれからの150年

金沢大学はいくつもの前身校を統合し、1949年に新制総合大学として誕生しました。前身校の中でも、第四高等学校の存在はひ

ときわ目立ちます。その校風の「超然時習」。あるいは旧金沢医科大学の「質実剛健」。流行に惑わされず、しかしその時代に必要な知識、優れた人材を柔軟に創成・養成していく。そういう精神は今の金沢大学にも引き継がれているように思います。

これからの150年はどうでしょうか。これも長いようで短いでしょう。これまでの150年のように激しい変化が起こるかは分かりませんが、社会の澪標（みおつくし）は確としてはいません。先ほど述べたモデル、めざすべき「坂の上の雲」はあやふやであります。だからこそ、大学が中心となってこれまでなかった新しい世界に目を向け、新しい価値を求めて行く。これこそが我々に与えられた責務だと考えます。

キーコンセプト〈先魁〉〈共存〉〈創造〉

創基150年記念事業のキーコンセプトでもある「先魁」は人材養成を意味しています。何を目標にし、何に価値を見いだしていくのか。人間としての価値を自分自身で磨き上げていく人材を養成するのが金沢大学の一つの大きな柱です。

2008年、自律した有為な人材の養成をめざし、教育組織を3学域・16学類に改組しました。12年3月、「学域・学類第一期生」が卒業します。社会でどのように活躍し、学域学類制がどのような評価を受けるか。これから数年は、金沢大学の将来における教育評価がなされる上で、非常に大切な年月となります。

また、先端的な研究・医療による「創造」。地球規模、人類の問題に対して、きちんと正面から取り組んでいます。例えば、エネルギー関連は喫緊の課題です。金沢大学では理工研究域内にサステナブルエネルギー研究センターを設置しました。強いところをより強く、精力的に研究に取り組んでいます。

「共存」への貢献としては、「金沢大学里山里海プロジェクト」を含めた多様な形での地域連携を応援し、社会貢献の新たな姿を模索します。こうした地方からのモデル発信で世界の類似した問題の解決につなげる。リージョナルセンターであると同時に、ナショナルセンターでもあるわけです。国際的な拠点になる気構えを持ち、「東アジアの知の拠点」をめざしています。

伝統と創造の担い手として

さて、人は人との関わりの中で生きています。大学も社会との関わりの中で存在しています。大学の存在理由は何かと問われれば、世界中の大学が「社会のため」と答えるでしょう。では、その本質は何でしょうか。それは「知の継承と知の創造」です。教育による継承と研究による創造です。

新しい知の創造には、まずは知の集積がなくてはなりません。金沢出身の神経内科学者・冲中重雄先生の言葉に「伝統なき創造は盲目的、創造なき伝統は空虚である」というものがあります。伝統は知の集積、その継承です。創造はそこから生まれてくる。単に知っているだけ、思いついただけ、ではいけない。知を継承し、知を創造する。「知の創造」は、そのこと自体に価値があり、さらにはそれが人間を、社会を豊かにする。ここにこそ大学の本質があると考えています。

学生は何のために学んでいるのかを自分で考える。教職員は大学の役割をきちんと認識し、自分のミッションをこなす。それぞれが自分のなすべき知的活動をし、その成果にひかれてよりよい人が集う。「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」として、「知の継承と知の創造」に満足を見いだす場であることが、「社会のための大学」である金沢大学の最大の使命です。

次代を担う人材を輩出する「金大メソッド」

－人材養成－

従来の学部学科制を学域学類制に改組した金沢大学は、多様な学びときめ細かい支援で、未来を切り拓く人材を養成しています。

柔軟で自由度の高い3学域・16学類

金沢大学は2008年、それまでの8学部・25学科を改組し、より広い枠組みとして人間社会・理工・医薬保健の3学域に再編、入学時の基本単位となる16学類を設けました。

従来の学部学科制は学問の枠組みが固定化されがちで、横断的な研究や新しい分野の出現などに対応しにくいという課題がありました。学生にとっては、学術・研究の高度化や多様化によって、大学入学時に自分の進路を決定することが難しくなっていました。

金沢大学は、より柔軟で選択の自由度の高い学域学類制を導入することで、学生は入学後、学びの基礎をしっかり築いた上で、本当に学びたいテーマを探し、将来の道を見据えることができるようになりました。

これにより、現代社会のさまざまな課題に対応するための応用力と創造力に富む人材養成の方向づけができたと言えます。

共通教育できめ細かく支援

2006年には教養教育のカリキュラムを刷新し、「共通教育」を開始しました。

すべての学生がまず共通教育を学びます。中でも、大学生活のスタートを支援するのが「導入科目」です。高校とは異なる大学での学び方をきめ細かくアドバイスし、大学生活を円滑に軌道に乗せる役割を担っています。大学教育の基礎となる知識や教養とともに、専門外の幅広い知識や現代的な教養も身につけます。

また、国際人としての素養を磨くには、英語力はもとより日本の文化や歴史などへの理解を深めることが不可欠です。

金沢大学では課題設定型の特設プログラムを導入し、21世紀を生き抜くために必要な教養を養う教育を積極的に展開しています。

共通教育は、専門教育とならんで、これからの時代でリーダーシップを発揮できる人材を育成する重要な役割を担っていると言えます。

さらに、金沢大学は東アジアの拠点大学をめざし、地域社会や産業界との連携・協力のもと、グローバルな人材の育成に努めています。

学生の就業力育成のために多くのインターンシップ事業を展開。2009年から中国、10年からはカンボジア・アンコール遺跡整備公団でインターンシップも行っています。こうした体験は多くの発見と視野の広がりをもたらし、国際社会へ飛び立っていく学生にとって、かけがえのない経験となるでしょう。

日中韓の大学間で単位互換制度を設ける「キャンパス・アジア構想」など、大学の国際化が加速する中、世界で活躍できるリーダー育成のため、学域学類制にマッチした大学院の改組にも取り組みました。

金沢大学は高度な研究と教育を創出し、世界を舞台に活躍する人材を輩出する教育機関として、これからも進化を続けていきます。

金沢医学専門学校（明治後期）

四高医学部独立，金沢医学専門学校として新設
1901 明治34年

手術を見学する学生ら（明治後期）

四高教授時代の西田幾太郎ら（明治中期）

明治27年 1894
第四高等中学校を第四高等学校に改称（人間社会学域，理工学域の前身）

第四高等中学校設置（医学部も設置）
1887 明治20年

第四高等学校（明治後期）

金沢医学校設置（医薬保健学域の前身）
1879 明治12年

明治8年 1875
石川県女子師範学校設置

啓明学校設置，77年石川県中学師範学校に改称
1876 明治9年

金沢医学館（津田玄蕃邸）（明治後期）

集成学校設置，同年石川県師範学校に改称（学校教育学類の前身）
1874 明治7年

石川県師範学校（1899年）

明治3年 1870
金沢医学館開設

加賀藩卯辰山養生所開設，医学館，薬圃附属
1867 慶応3年

文久2年 1862
加賀藩彦三種痘所開設（金沢大学の源流）

明治－文久

「社会貢献」を使命とし、持てる資源を還元

「社会のための大学」を自任し、「社会貢献」を重要な責務とする金沢大学は、地域や世界との共存共栄をめざし、地域連携を積極的に推進しています。

－地域連携－

能登を拠点に総合的地域研究

金沢大学は大学憲章において自らを「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」と位置づけ、教育、研究とともに社会貢献を重要責務に掲げています。「社会のための大学」として、地域とともに歩み、蓄積した知を社会の課題解決・発展に資する理念を示したものです。

「金沢大学アクションプラン２０１０」においても地域連携を重要な柱とし、リージョナルセンターとしての役割遂行と、地域経済の活性化や、行政、教育、医療などの問題解決に貢献することを基本方針に掲げています。

多様な地域連携事業の中でも、先進事例として特に注目されているのが「金沢大学里山里海プロジェクト」です。珠洲市の能登学舎を拠点として、さまざまな教育・研究及び連携プログラムを実施することで、自然保全と地域再生をめざす多彩な活動を展開しています。

中でも「能登里山マイスター養成プログラム」は、２０１１年度までの５年間にわたる事業により、次世代のリーダーや地域の担い手を輩出。12年度からは石川県及び奥能登２市２町との連携による「能登キャンパス構想」がスタートし、グローバルな課題の解決に取り組むことができるプログラムを準備しています。

２０１０年に設置した能登オペレーティング・ユニットは、能登における総合的・多角的な教育・研究活動を支援し、国内最高水準の総合的地域研究の拠点づくりを推進しています。

先端医療や人材育成で地域再生をけん引

地域の産物を生産者らと協働でブランド化する地域ブランディングの取り組みも成果を挙げています。

人間社会学域法学類の知的財産法ゼミは２００６年から七尾市の伝統野菜「沢野ごぼう」のプロデュースを手掛け、知名度向上や地域団体商標取得に貢献しました。

この活動をベースに法学類公認サークル「地域ブランディング研究会」が誕生し、白山市の「ヘイケカブラ」、七尾市の「能登鍋」などのブランド化プロジェクトにも学生たちが関わっています。

医療分野では医薬保健学域と附属病院が、先進的医療の開発・提供、地域連携診療の計画、寄附講座や特別枠を活用した医師の育成・派遣などにより、地域医療再生をけん引しています。

今春には県と連携して附属病院外来棟に、質の高い医療人の育成やスキルアップを担う「金大病院ＣＰＤセンター（仮称）」を着工、13年３月の完成を予定しています。管理運営も県と連携して設立した石川県地域医療支援センターが行います。

これからも金沢大学は、豊かな研究成果と教育実績をもとに、持てる知識と技術を社会に還元していきます。

昭和－大正

- 金沢医科大学設置 1923 大正12年
- 大正9年 1920 金沢高等工業学校設置（理工学域〈工〉の前身），44年に金沢工業専門学校に改称

医科大学講義風景（大正期）

工業学校開校式校長式辞（1923年）

- 大学院医学研究科設置 1955 昭和30年
- 昭和24年 1949 金沢大学誕生 法文・教育・理・医・薬・工学部の6学部設置

理学部階段教室で卒論発表（1954年）

- 大学院理学研究科設置 1963 昭和38年
- 昭和39年 1964 大学院薬学研究科設置

城内教養部新校舎・中庭（1964年）

開学10周年記念祭（1959年）

- 大学院工学研究科設置 1965 昭和40年
- 昭和42年 1967 がん研究所設置
- 大学院法学研究科設置 1971 昭和46年
- 昭和47年 1972 大学院文学研究科設置，医療技術短期大学部設置
- 総合移転（200ha構想）方針決定，80年に総合移転地を「角間地区」に決定 1978 昭和53年
- 昭和55年 1980 法文学部を改組，文・法・経済学部を設置
- 大学院教育学研究科設置 1982 昭和57年
- 昭和59年 1984 大学院経済学研究科設置
- 大学院理・工・薬学研究科を自然科学研究科に統合 1987 昭和62年

共通1次学力試験へ向かう受験生（1985年）

知の融合による知の創造で、未来を切り拓く

－先端研究－

新たな研究領域の創成と独創的な研究者育成をめざす金沢大学は、支援体制をさらに強化し世界に冠たる研究拠点づくりを進めています。

先進的な研究を強力サポート

金沢大学は知の融合による知の創造をめざし、基礎研究から実践研究まで世界的な研究成果の積み上げ、応用に取り組んでいます。

がん研究や睡眠制御システムの解明、有機薄膜太陽電池の実用化など、国が「新成長戦略」の2つの柱として位置づけたグリーン・イノベーションやライフ・イノベーション分野を中心に、次代を切り拓く先進的な研究で世界をリードしています。

特に、将来、金沢大学の特徴となる研究の基盤づくりをめざす5つの「重点研究プログラム」には資源を集中投入し、成果も出始めています。「発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成」では、女性ホルモンの一種「オキシトシン」の有効性を世界で初めて確認し、自閉症の治療の可能性に道を拓きました。

世界に通用する若手研究者を育成し、国際的な教育研究拠点を構築するため、さまざまな支援体制も整えています。中でも特徴的なのが若手研究者を任期つきで採用し、業績が認められた者に常勤のポストを与える「テニュア・トラック制度」です。この制度によって採用された気鋭の研究者らが充実した研究環境で、優れた成果を上げています。

研究者を支援し、協働で研究の推進に取り組む高度な専門的知識・経験を有する「リサーチ・アドミニストレーター」（URA）の育成も推進しています。金沢大学は2011年、文科省事業「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」に採択されました。国内でURAを導入している大学はまだ少ない中、先駆的な取り組みに注目が集まります。

先端のAFM（原子間力顕微鏡）を使った研究・技術開発を推進する理工研究域バイオAFM先端研究センターをはじめ、6つの研究拠点が誕生しています。本学が有する強みをさらに強化する中核としての役割に期待が高まっています。

さらに今春、「一流の研究には一流の研究支援を」を合い言葉に、イノベーション創成センターとフロンティアサイエンス機構を融合した「先端科学・イノベーション推進機構」が発足します。同機構は、重点研究プログラムを含む研究部門と研究支援を担当するアドミニストレーション部門で構成されます。これにより、教育研究の高度化や基礎研究から応用研究まで一貫した研究支援、産学官の連携を促進していきます。

金沢大学の強みをさらに強化

2008年から、3研究域に「研究域附属センター」の設置を進めています。金沢大学が持つ世界最

金沢大学創基150年
2012
平成24年

移転完了した角間キャンパス（2010年）

平成20年
2008
学部・学科制改組，
3学域・16学類スタート

総合移転（第Ⅱ期）開始
金沢大学法人化
法務研究科（法科大学院）設置
2004
平成16年

平成12年
2000
金沢大学サテライト・プラザ開設

教養部を改組，
教養教育機構設置
1996
平成8年

総合移転（第Ⅰ期）完成記念祝賀会（1995年）

平成7年
1995
医療短期大学部を改組，
医学部保健学科設置

金沢大学標石

平成5年
1993
大学院文・法・経済学研究科を
社会環境科学研究科に統合
06年に大学院人間社会環境
研究科に改称

総合移転（第Ⅰ期）開始
1989
平成元年

平成

造成中の角間地区（1988年）

歴史と文化が薫る 学びのまち・金沢

伝統と先端が調和した都市・金沢。金沢大学は、このまちに育まれ、このまちの発展に貢献してきました。

金沢の玄関口となる金沢駅（鼓門）

学びの伝統を受け継ぐ

江戸時代、「加賀は天下の書府」と言われたように、加賀藩は学術を奨励しました。その文化を受け継ぐ金沢は、長く学術や教育の中心として発展してきました。

明治期に入ると、師範学校や医学校などの高等教育機関が相次いで設置されます。特に、井上靖や西田幾多郎などの著名人を輩出した第四高等学校は、日本海側唯一のナンバースクールとして、近代日本を支える人材を養成しました。

「学都」金沢はデータからも裏づけられています。金沢を中心に、石川県の19の高等教育機関に3万人以上の学生が在籍し、学校数は人口あたりで全国第2位、学生数も第5位です。19機関に放送大学を加えた20の機関が大学コンソーシアム石川として連携し、学びのまちを支えています。

まちに育まれ、まちをけん引

長い歴史の中で、金沢大学を含む各教育機関は市民と一体となって街を形成してきました。住民と学生が助け合う関係をより強化する試みとして、金沢市は2009年に「学生のまち推進条例」を制定。学生がボランティアなどを通じてコミュニティの一員となり、地域を活性化させる取り組みを行っています。

また、金沢は北陸の政治・経済・文化の中枢都市として、金沢21世紀美術館など最先端の文化施設を併せ持っています。伝統工芸も盛んでユネスコの「クラフト創造都市」にも選ばれているほか、豊かな自然を残し、一年を通して潤いのある空気に包まれており、四季折々の美しい風景を楽しむことができるのも特徴です。

このように、金沢は魅力的な街として存在しています。これまでも、これからも、大学はこのまちに育まれ、そしてこのまちのけん引役として、地域と世界の期待を背負って歩み続けます。

友禅流し（上）と金沢21世紀美術館（下）

近世城郭の復元が進む金沢城（写真は旧教育学部周辺）

大学の役割や留学の意義について意見交換する各大学の学長ら（アジア5大学学長フォーラムin金沢）

あいさつする中村学長（アジア5大学学長フォーラムin金沢）

金沢大学創基150年

金沢大学創基150年記念事業

原点と未来に思いを馳せ、新たな150年へ

出発点の証を刻む

2010年11月6日、金沢城公園石川門付近に石碑「金沢大学誕生の地」を建立しました。金沢城公園は、新制金沢大学が誕生した地です。角間キャンパスに移転するまでの46年間、金沢大学は世界的にも珍しい「お城の大学」として親しまれました。今回の設置はここで学んだ卒業生の後押しを受けて実現したものです。

また、2011年11月5日には、石碑「金沢大学発祥の地」を建立。天然痘を未然に防ぐために加賀藩が開設した「彦三種痘所（ひこさぶしゅとうしょ）」を金沢大学の起源としており、このほど、金沢彦三郵便局前が跡地と特定され、本学の発祥地の証が刻まれました。

石碑の題字はいずれも中村信一学長が揮毫（きごう）しました。金沢大学の発祥と誕生を象徴したこれらの石碑は今後、在学生・卒業生の心のよりどころとなることでしょう。

アジアの学術交流を加速

2011年11月12日には、「アジア5大学学長フォーラムｉｎ金沢」を開催しました。本学の重要なパートナーであるアジアの諸大学のうち、北京大学（中国）・釜山大学校（韓国）・チェンマイ大学（タイ）・ベトナム国家大学ハノイ（ベトナム）の学長らを招き、アジアにおける新しい連帯連携に向けたそれぞれの課題と理想について語り合いました。会場となった石川県立能楽堂では能「石橋（しゃっきょう）」も披露され、学内外から参加した約400人が興味深く見入っていました。

翌13日には、アジアからの留学生や本学学生が中心となって「アジア学生フォーラムｉｎ金沢」を開催し、「つながりまっしアジア－見つめ合い・話し合い・支え合い－」をテーマに市民らと交流を深めました。

このほか、自主企画や各種講演会・シンポジウムの取り組みを行い、5月には記念式典の挙行、『金沢大学150年史』の発行を予定しています。

金沢大学は、これらの事業を通じ、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」という本学のアイデンティティを具現化していきます。

石碑「金沢大学発祥の地」の建立を祝う関係者

石碑「金沢大学誕生の地」の除幕式

金沢大学を彩る人びと

学ぶ人，巣立った人。ともに歩み見守る人。
それぞれが心に抱く金沢大学や金大生への
思いを紹介します。

大家さん

西川 由美子さん

金大生とは30年来の付き合いです。自宅の部屋を貸したのが始まりで，学生との交流が楽しく，家をアパートに改装しました。学生はわが子のように思っており，何かあればすぐに駆けつけられるよう心がけています。卒業後も年賀状をやり取りしています。

地 域

須加 栄さん

自分が卒業生ということもあり，金大生には特別な思い入れがあります。仕事の傍ら携わっている冊子編集で学生にインタビューしたとき，地域と積極的に関わろうとする姿に感銘を受けました。歴史都市・金沢にある大学ならではの体験をとおして人間形成されていると感じています。

留学生

サボライネン・カイスさん
（フィンランド出身）

金沢の歴史と文化に興味があり，出身大学の協定校の中から，留学生向けのプログラムが充実している金沢大学を選びました。150年もの間，高いレベルの教育を提供してきたことをお祝いします。

アルバイト先

山際 翔太朗さん
（結婚式場支配人）

これまで300人ほどの金大生を採用しました。オープン当初はアルバイトの5割が金大生でしたが，今は8割。主体的で，10任せたら11，12までやってくれます。社員が自主的に行う早朝勉強会に参加する学生もいるほど。ぜひ金大生に社員として来てほしいです。

地 域

板谷 睦卓さん
（町会長）

住民や学生などでつくる「大学門前町学生のまち推進協議会」や，雪かきボランティアなどで金大生と交流しています。ボランティアは住民と直接話ができるチャンスです。ぜひ地域に関心を持ち，自覚と責任をもって学業に励んでください。

親子で金大生

スキーに打ち込み，冬は長野のスキー場から通学するような学生時代でした。仲間ともよく飲みました。留年してしまいましたが，その分勉強できたので良かったです。打ち込んだ経験が今役に立っています。大学では多くの出会いと経験を積んでほしい。ことんやれば道は開けます！（悦朗さん）

山瀬 悦朗さん
（法文学部法律学科 1982年卒業）

山瀬 亮さん
（自然システム学類4年）

両親の話を聞き，小さいころから金沢大学に憧れていました。自分で考え進めていく実験中心の研究室生活はとても充実しており，大学院に進んでも向上心を持って取り組みます。金大がますます発展して，いつか自分の子どもにも勧められたらいいですね。（亮さん）

大家さん

室井 健治さん

鍵をなくして一緒に探したことのある学生が，卒業するときにわざわざあいさつに来られたことが懐かしい思い出です。学生には，金沢での学生生活をエンジョイしてほしいです。

公開講座受講生

松橋 正子さん

城内キャンパスのころからさまざまな講座に通っています。当時かけ出しだった先生も，今では皆さん立派になられました。現在は，まちなかにある金沢大学サテライト・プラザによく足を運んでいます。最先端の研究のお話が聞けるので毎回楽しみです。

親子で金大生

笠原 美優さん
（医学部医学科 2010年卒業）

笠原 善仁さん
（医学部医学科 1982年卒業）

笠原 恵理さん
（医学部医学科5年）

笠原 理愛さん
（医学類3年）

金沢医学館(※1)の建物を目にしたり，講義で高安病を発見した高安右人先生(※2)の話を聞いたりすると，歴史と伝統を感じます。同じ金大生の姉たちから実習の様子などを聞くことができるので助かります。勉強はもちろん部活，アルバイトも頑張っています！（理愛さん）

入園無料だった兼六園を抜けて城内キャンパスに通いました。現在，金沢大学の教員となり，学生時代のめり込んでいた医学部サッカー部の部長もしています。私自身，兄弟で金大生でしたが，娘3人も同窓です。同じ大学に通えることを光栄に思います。（善仁さん）

※1 医学類の前身
※2 前身校の校長などを歴任

留学生

イスマエル・タベティさん
（ソロモン諸島出身）

先生や学生が親切で，勉強するための環境と設備も整っています。ソロモン諸島からの留学生は私だけですが，他の学生にも勧めたいです。温暖な自国では雪が降らないので，初めてのホワイトクリスマスは感激しました。

金大生に聞きました
金沢大学や金沢の街のイチオシを教えてください！

その1 金沢大学のキャンパスや施設

◎広くて建物がきれい！
◎研究設備が整っていて研究に集中できる
◎静かで学ぶ環境がとても良い
◎学食のメニューが充実していて，健康的でおいしい
◎無線LANが整備されどこからでもインターネットに接続できて便利
◎雪つりをモチーフにした大屋根があり，ライトアップされて神秘的

その2 金沢大学での学び

◎学域学類制で自分が本当にやりたいことを見つけることができる
◎他大学にはない珍しい専門領域がある
◎パソコンやインターネットを利用した教「e-ラーニング」が充実している
◎図書館の蔵書が豊富で，前身校から引き継いだ貴重資料も多い
◎世界で屈指の先端研究ができる

その3 金沢の街

◎歴史的な街並み。趣のある町屋も多く残っていて路地を歩くとわくわくする
◎海にも山にも近くて，食べ物がおいしい。金沢カレーもオススメ！
◎今と昔のいいところがうまく融合した，魅力的な都市

連載

金沢大学の
地域連携レポート②

大学の人材・知的財産を地域に展開

地域で学びながら社会貢献
学生のアイデアで地域を活性

竹燈籠で茶屋街を彩る

「金澤ひがし竹あかり」プロジェクトは、2010年から始まった学生による地域連携の取り組みで、11年10月に2回目を実施しました。角間キャンパス「里山ゾーン」から切り出した竹材を活用し、住民・地域団体と協働で、金沢のひがし茶屋街を竹燈籠で彩りました。

イベント当日は1000個以上もの竹燈籠が茶屋街の細い路地にまでくまなく配置され、夕暮れ時の街中を照らすと、観光客も足を止めて見入り、幻想的な世界を堪能していました。

コミュニティの活力を創出

ひがし茶屋街では、街並みの整備や茶屋文化を活かした観光地化が進み、一年を通じてさまざまな行事が開催されています。一方、住民の高齢化や人口の減少に伴い、これまで町会が主体的に行ってきた行事の開催が見送られるなど、地域コミュニティの力が弱くなってきています。

このような状況を踏まえ、学生と住民との持続的な交流を通じて新たな活力創出の契機とすることをめざし、「金澤ひがし竹あかり」が企画されました。金沢大学地域連携推進センターが、学生と地域をつなぐコーディネート役を担っています。

地域との協働モデルに

夏ごろから10月のイベント当日まで、打ち合わせやワークショップの開催、竹の伐採や燈籠の制作など、地域とのやりとりを重ねました。その過程で、環境やまちづくり関連のNPO、地元の小学生やPTA、高校生グループや他の学生サークルなど、多様な参加者が関わり、イベント終了後も学生と住民との交流が続いています。このような人のつながりが生まれていくこともまちづくりの面白さです。

まちを幻想的に彩る竹あかり

現在の課題は、この活動が地域と大学の協働事業のモデルの一つとなるよう、持続的に無理なく展開する仕組みを構築することです。2011年度にはその対策の一つとして学生のプロジェクト・チーム「燈笑会」も結成され、活躍が期待されています。

地元住民らと竹灯籠を制作

学びたい気持ちをサポート
地域に学びの場を提供

4大学が密接に連携

2003年度から毎年開催し、11年度で9回目を迎えた「北陸地区4大学連携まちなかセミナー」は、北陸地区国立大学連合(富山大学・福井大学・北陸先端科学技術大学院大学・金沢大学)が専門委員会を開催し、セミナーの開催時期の検討や情報交換などを行っています。

4大学で互いに連携協力しながら、地域に学びの場を提供しています。

地域のニーズに応える

金沢会場では、これまで未来ロボット、先端産業、生活習慣病、地下構造と地震など、さまざまな分野を取り上げてきました。

11年度は、「子どもの学力を考える」をテーマに開催し、活発な学習支援を行いました。参加者からは、教育現場の理想と現実の狭間に立つ悩み、教員をめざす学生の声も聞かれ、子どもにとって必要な学力とは何かについて深く考える機会となりました。

まちなかセミナーの様子(金沢会場)

まちなかの学びの拠点「金沢大学サテライト・プラザ」

まだまだある 学生プロジェクト

「金澤ひがし竹あかり」のほか, 能登の祭り支援プロジェクト, 学生によるメディアを活用した社会貢献活動(web-KURS)など, 学生が地域社会に参画する活動を「学生による地域連携プロジェクト」として推進中です!

プロジェクトに参加した学生の声

米良 亘平(めら こうへい)
(地域創造学類3年)

住民の皆さんと一緒にイベントを作り上げることは, 教室内での講義では体験できません。住民の方々からお話を伺う中で, 歴史や伝統・文化, そして何よりそこに住む人々がいるからこそ, 地域社会が成立することに気づきました。

角間キャンパス里山ゾーンから竹を伐採

地域と大学の架け橋として

金沢大学地域連携推進センターの「生涯学習」「地域連携」の2部門が活動を行っています。

社会教育・生涯学習の振興を図る

地域連携推進センター
生涯学習部門長
浅野 秀重 教授

生涯学習部門は, "広げようひとと人の和 まなびの輪" をスローガンに, 多様で高度化する住民の学びへの要求や社会からの要請に応えるため, 公開講座やミニ講演などの学習機会を提供, 社会教育・生涯学習の振興, そして「知」の共創と循環に寄与していきます。社会教育主事や学校図書館司書教諭などの指導者の養成や研修事業も行っています。

大学と地域をつなぎ, 地域再生に取り組む

地域連携推進センター
地域連携部門長
松下 重雄 准教授

地域連携部門は, 大学が持つ人材や知的財産を地域の課題解決に活かすことをめざしています。大学と地域が対話するタウンミーティングなどの開催を通じて, 住民, NPO, 企業, 地方自治体などが連携できるように, コーディネートしています。

さらに, 学生が地域活動に積極的に参画することで社会貢献や教育研究に寄与する, 学生による地域連携の取り組みを推進しています。

金沢大学地域連携推進センター
〒920-1192　石川県金沢市角間町
TEL (076) 264-5271, 5289
http://www.crc.kanazawa-u.ac.jp/crc/

笑顔を心掛けて足湯を提供するメンバーら

人間社会学域法学類３年
眞杉 篤司
MASUGI Atsushi

被災者に寄り添えるボランティアを

能登での足湯ボランティアの経験を活かしたいと，仲間とともに東北に通う眞杉さん。学生主体の支援活動について伺いました。

じっくりと耳を傾ける

ボランティアサークル「金沢大学能登見守り・寄り添い隊『灯（あかり）』」は、２００７年の能登半島地震をきっかけに結成され、能登などで足湯活動を行ってきました。東日本大震災後は毎月一回、岩手県陸前高田市を訪れ、教員や石川の住民とともに支援活動に取り組んでいます。

現地では、被災者の足をお湯につけ、手をマッサージしながら会話します。できるだけ震災のことに触れないようにしていますが、今なお避難所や仮設住宅暮らしを余儀なくされている被災者の中には聞いてほしい人もいるかも知れません。足湯を通してじっくり話を聞き、不安や孤独を和らげることができればと思います。被災者の思いに共感することこそが、私たちの最も大切な役割だと感じています。

現地ではがれきの撤去や海岸清掃も行いました。ガラス片を拾ったり、砂浜に埋まった漂着物を数人がかりで掘り出したりと、さまざまな活動に取り組んでいます。そこで知り合った住民と手紙のやりとりを続けているメンバーもいます。

金沢にいるときは住民から支援物資を預かったり、小学生と一緒に仮設住宅用の表札を作ったりしています。

継続こそ力なり

課題も見えてきました。例えば、足湯を暑い季節に行うには配慮が必要です。被災者に少しでも気持ちよく過ごしてもらうにはどうしたらいいか、メンバーと話し合っています。対策が遅れているボランティア側の心理的負担のケアも必要です。

被災者の立場でボランティアのあり方を探り、協力を希望する学生をサポートするため、私たち「灯」や「Volunteer Japan 金沢」など学生ボランティアグループのメンバーが集まりました。「学生ボランティアさぽーとステーション（下記参照）」の実働組織として、大学と積極的に連携しています。

私たち個人・グループの活動は、被害の規模や被災者の数に対してはごく小さなものに過ぎません。それでも被災地を忘れずに努力を続け、被災者に寄り添った支援をしていきたいと考えています。

金沢大学のボランティア支援

2011年6月に「学生ボランティアさぽーとステーション」を発足させ，講習会の開催など支援を行ってきました。12年3月には，学内向けポータルサイト「アカンサスポータル」を通じ，学生が希望に合うボランティア活動を検索して参加申込や情報収集ができるサービスを開始します。

［問い合わせ］学生部学生支援課
TEL（076）264-5167
E-mail:soudan@adm.kanazawa-u.ac.jp
http://ghp.adm.kanazawa-u.ac.jp

浜に埋まった漂着物を掘り起こす

ともに活動した皆さんと

学生インタビュー

Student Interview

行動力を身につけ，
地域から世界まで飛び回る金原さん。
意欲的な取り組みやその原動力，
これからの展望を聞いた。

人間社会学域地域創造学類３年
金原 志帆 KIMPARA Shiho

文系でも環境が学べる

「自然環境に興味があるけれど、理系学部には進みにくい」。文系の金原さんが選んだのが地域創造学類だ。先輩から金沢大学の良さを聞いて興味を持っていたこともあり、「〝地域創造〟というテーマが珍しく、自然と社会の関係を深く学べるコースもある。面白そうだと思った」。

教養科目「都市計画・まちづくり入門」がきっかけで地域の多様性や取り組みにも関心を持ち、２年生で地域プランニングコースに進んだ。「やれること・やりたいことが多くて迷うこともあるが、さまざまな選択肢があるのが魅力的」と話す。

卒論テーマは公衆トイレ?!

住居・住環境のゼミに所属し、卒業論文のテーマに公衆トイレを考えている。３年生の夏休み、他研究機関のインドでの調査に同行した。日本との違いを最も強く感じた衛生面で、特に着目したのはトイレだった。

インドではお尻に水をかけて手で洗い流すトイレが一般的だが、近年、観光地ではトイレットペーパーが普及し始めている。しかし、掃除が行き届かず、駅の有料トイレですら腰が引けてしまうほど汚れていた。「人々の衛生意識はどうなっているのか？と考え、調べていくうちに奥深さを感じた」。

思い切って飛び込んだ異国の地で、環境にも地域にもつながる、びっくりの課題を見つけることができた。

インドで現地学生の輪に入る金原さん（右手前）

地域社会にもう一歩踏み込む

一方で、「地域について学んでいるのに、自分が住んでいる地域と関わらなくていいのか」という気持ちもあった。金沢市の雪かきボランティア事業を知ると、チーム「地域創造」を結成して５人で参加した。

金原さんは雪の降らない静岡県の出身。担当した地区の住民から、降り積もった雪の上から四角に切れ目を入れ、下からすくい取るやり方を教えてもらった。「北陸の雪は重い。高齢者が行うのは大変」と実感した。

雪かきは土日が主だ。昨冬、住民が学生の忙しさを気遣い、大雪になっても遠慮して連絡をためらっていることを知った。「今冬はこちらから積極的に声をかけていきたい」。18人に増えたメンバーで、もう一歩踏み込んだ関わり方に挑む。

地域の輪を世界に広げたい

金原さんは大学入学後、「高校時代までの内向的な自分を変えたい」と海外渡航やボランティアだけでなく、自らどんどん外に出るようになった。今では「いろいろなことに興味がわくし、いつも人と関わっていたい」という。

社会人になったら町会の行事や活動などに進んで関わっていくつもりだ。「地域に愛着を持ち、人とつながることで、世界がもっと楽しく広がっていくはず。周りの人を巻き込んで、地域の輪を広げていきたい」。地域のリーダーとして将来を期待できる、とびっきりの笑顔が印象的だった。

雪かきボランティアメンバーと地域の方で記念の一枚
（後列右から3人目が金原さん）

金原 志帆 さん
プロフィール

静岡県出身。
大学２年まで男子バレーボール部のマネージャーを経験。その後，時間があるうちにとフィンランドを訪れた。「期待していたオーロラは残念ながらいまひとつ。でも，星がすごくきれいだった」。

卒業学部・学域を超え，各地で交流が進む

金沢大学同窓会情報

より強い連携・協力に向けて「金沢大学学友会」設立

金沢大学は、学域・学類の一期生が卒業する2012年に「創基150年」を迎えました。この節目を機に、全学的な同窓会が誕生しました。

2011年11月5日、第5回金沢大学ホームカミングデイの開催にあわせ、「金沢大学学友会」を設立しました。初代会長には深山彬氏（1963年法文学部卒）が選出されました。

学友会は、2006年に発足した同窓会連絡協議会を構成する基幹同窓会に、職域、地域、学寮、サークルなどで組織する各種同窓会が、登録同窓会として新たに加わった、ひとまわり大きな全学同窓会です。同窓会の一本化ではなくゆるやかな連合組織の結成で、従来の同窓会は独自の活動を継続します。

全学同窓会として全国的な交流と連携を推進することで、卒業生同士の交流と親睦を図り、あわせて大学との連携と教育研究活動への支援を行い、大学の発展と社会に貢献することをめざします。今後、すべての各種同窓会に学友会への登録を呼びかけていきます。

学友会の会議

金沢大学学友会 役員

（2011年11月5日現在）

会長
深山　彬　金沢商工会議所会頭

副会長
加藤　晃　法経文学部同窓会会長
岩田　靖夫　教育同窓会会長
中西　孝　理学部同窓会連絡会会長
佐藤　保　医学部十全同窓会会長
辻　彰　薬学同窓会会長
角野　忠昭　つるま同窓会会長
山崎　光悦　金沢工業会会長
澁谷　亮治　四高同窓会会長

代表理事
古川　俱　金沢大学副学長（同窓会担当）

理事
安宅　建樹　法経文学部同窓会副会長
澤野　等　教育同窓会事務局長
星名　哲　理学系生物学同窓会副会長
加藤　聖　医学部十全同窓会理事長
向　智里　薬学同窓会副会長
松崎　太郎　つるま同窓会顧問
前川　幸次　金沢工業会理事長
喜田惣一郎　四高同窓会事務局長

監事
濱田　昌一　金沢大学監事
野村　祐治　教育同窓会監事

活動報告 2011.11～2012.2

2011
11/5 金沢大学学友会設立総会・第5回金沢大学ホームカミングデイ

11/7 北斗寮同窓会総会
11/18 平成23年度中央官庁附属高校出身者「のがすみ会」第29回総会
11/26 金沢工業会全国総会
2012
1/27 長野県庁「加賀の会」総会

基幹同窓会支部総会等

【法経文学部同窓会】
11/12 福井　2/22 富山
【教育同窓会】
11/20 幹事会
【理学部同窓会連絡会】
11/4 化学科　11/5 地球学科
【医学部十全同窓会】
11/20 能登
【薬学同窓会】
2/18 関西
【金沢工業会】
11/26 東海　10/31 兵庫県研土会　11/12 石川　11/20 福島　12/3 静岡　2/3 石川研土会

金沢大学学友会

同窓会結成の際は，学友支援室（学友会事務局）へご一報ください。また，各種同窓会活動の近況や総会・懇親会等の情報をお寄せください。

［事務局］金沢大学学友支援室
〒920-1192　石川県金沢市角間町
TEL（076）264-5081
FAX（076）234-4015
E-mail:gakuyu@adm.kanazawa-u.ac.jp
http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakuyu/

※大学や同窓会が業者に名簿作成を依頼することはありません。電話等の勧誘には十分ご注意ください。

Circle introduction サークル紹介

ハーモニーで感動の輪を広げる 吹奏楽団

吹奏楽団の活躍はここで！
http://kuwo.sakura.ne.jp/

合奏では迫力ある音色が響き渡る

息の合った音楽は聴く人を感動の渦に引き込む。金沢大学吹奏楽団は、2011年10月、全日本吹奏楽コンクール大学の部で銀賞を受賞した。地方大会を勝ち抜いた13チームが集まる本大会への出場は2年連続で、積み重ねた練習の成果を出し切った。「はじめの一音は緊張が走ったが、やり遂げると心が満たされた」と団長の前田彩伽さん（人文学類2年）は話す。

数々の賞を獲得してきた吹奏楽団は、今では150人を抱える大所帯。経験を問わず、演奏や評判を聞いて入団するケースも多いという。

何より出だしが重要で、ピタリとそろえるのは難しい。「特効薬」はなく、全神経を研ぎ澄まし、心を一つにして繰り返し練習するほかない。自宅でCDを聴いてイメージを膨らませ、楽器の指づかいを確認し、週3回の集まりでは音合わせに専念する。晴れた日に広大な角間キャンパスの屋外で練習すると、音がホールのように響き渡り爽快感が味わえるという。

「皆で音を合わせるのが醍醒味。もっと多くの人に聴いてほしい」。年に一度の定期演奏会はリピーターも増え、昨年は過去最高の800人が訪れた。魅了された観客から演奏依頼も飛び込んでくるという。

演奏会は担当を決め、企画から当日までの作業を分担する。大所帯をまとめる秘訣は「一人で抱え込まないよう声を掛け合うこと」。団員一丸となって響かせるハーモニーは、これからも人の心をつなぎ、感動の輪を広げていくだろう。

現在，金沢大学には文化系サークルが42，体育系サークルが41あり，2,500人以上の学生が所属しています。
http://ghp.adm.kanazawa-u.ac.jp/archives/12.html

絆が生み出す大きな力 柔道部

柔道部の活躍はここで！
http://www.geocities.jp/kanazawajudo/

力強い稽古の様子

創部60年を迎えた金沢大学柔道部。現在、男子10人、女子2人が所属している。道場の壁には歴代の部員たちの名札約500枚がずらりと並び、伝統と歴史を感じさせる。

角間キャンパス内にある柔道場では、白い胴着に身を包んだ部員が「バン！バン！」と受け身の力強い音を響かせていた。「試合後は自分の欠点を克服するため、特に稽古に打ち込みます」と語るのは、主務の大島圭祐さん（電子情報学類3年）だ。高校生を相手に練習したり、教えたりもしているが、学内外を問わず、より多くの相手と組み合うことが、強くなるための近道だという。

「先輩後輩の区別なく、意見を言い合える雰囲気を大切にしています」と話すのは主将の椿大志さん（機械工学類3年）。勝ち負けも重要だが、礼を重んじ、心身を鍛練して精神的な強さを体得するのが柔道部の真の目的だ。

「せっかく多くの先輩たちがいるのに、つながりがないのはもったいない」。卒業生が呼びかけ、2011年に同窓会が誕生した。連絡と調整に少し手間取ったが、部員にとってはOBとの絆を確かめる好機となり、期待に結果で応えたいという意識も強まった。5月のインカレ予選で好成績を収めて全国大会を狙おうと、皆が意気込む。

同窓会の設立をきっかけに、先輩たちの力添えも得て、一層の活躍が期待される柔道部。明日の一本勝ちのために、稽古に自然体で励む若人たちの汗が今日もほとばしる。

2011 October 10月

10/1 地域連携プロジェクト「金澤ひがし竹あかり」を実施
P18・19に関連記事

10/7 駐日本国大韓民国特命全権大使の特別講演会を開催

10/8 平成23年度大学改革シンポジウム「防災・日本再生シンポジウム」を開催
「北陸沿岸の地震津波防災と海洋立国推進の在り方」をテーマに学内外の専門家ら8人が講演しました。

10/14 人間社会研究域附属国際文化資源学研究センターが講演会を開催

グアテマラ共和国文化スポーツ大臣エクトル・エスコベト博士

10/17-11/18 資料館特別展「金大事始～加賀藩種痘所から学都金沢へ～」を開催

10/29-30 「いしかわ金沢学」秋コースを開催
留学生らが和紙工芸などを体験しました。12月10日開催の冬コースでは沈金工芸に挑戦しました。

10/31 日独修好条約締結150周年記念菩提樹を植樹
ドイツからの菩提樹寄贈事業の一環として、本学でも植樹を行いました。

November 11月

11/2 環境保全センター30周年記念式典・記念講演会を開催

11/17-19 人間社会研究域フレスコ壁画研究センターがイタリアから修復士を招き、学生に講義・実習指導

国立大学フェスタ2011

10/1 金沢大学未来開拓研究公開シンポジウム2011-in大阪

10/29 第4回金沢大学未来開拓研究公開シンポジウム
東京で「新研究領域を拓く－若手研究者による挑戦」をテーマに開催し、約100人が参加しました。

11/4-6 第48回金大祭

11/5 第5回金沢大学ホームカミングデイ・金沢大学学友会設立総会
P22に関連記事

11/5 理工学域「ふれてサイエンス&てくてくテクノロジー」
展示や実験体験コーナーなど、子どもから大人まで楽しめる企画でにぎわいました。

11/5・6 医学展2011

11/6 金沢大学散策ツアー

創基150年記念事業

11/5 石碑「金沢大学発祥の地」除幕式

11/12 アジア5大学学長フォーラム-in金沢

11/13 アジア学生フォーラム-in金沢

11/13 留学生懇談会
留学生や教職員など、また今回はアジア3大学の学長らを交え、約400人が交流しました。

P15に関連記事

11/24 平成23年度金沢大学永年勤続者表彰式を挙行

11/26 法学類サークル「金沢法友会」が法教育の取り組みを発表
法務省のシンポジウムで、法教育の担い手としての役割を報告しました。

December 12月

12/3 「金沢大学タウンミーティング-in小松」を開催

12/5 がん進展制御研究所が共同利用・共同研究拠点研究成果報告会を開催

12/9 附属図書館が日比野克彦氏を招きシンポジウムを開催
芸術と風土の関わりをテーマに活発な意見交換が行われました。

意見を述べる日比野氏（左から2人目）

12/20 金沢大学シンポジウム「日本の未来を担う人材養成・教育改革モデルの構築」を開催
東京で国立大学等を先導する大学改革モデルを全国に発信しました。

12/21 金沢大学オープン・スクール「生活者発想塾」を開催
参加者は、創造性豊かな生活を送るための多面的な「ものの見方」の方法を体感しました。

12/23 まちなかサイエンスセミナー「知的好奇心を刺激しよう！」を開催
「最先端・次世代研究開発支援プログラム」として採択された6つの研究を市民に紹介しました。

2012 January 1月

1/4 自然科学3号館南側に歩道が開通

1/4 学生らが新春餅つき大会で地域住民と交流

1/11-16 フィリピンで世界農業遺産に関する学術フォーラムを開催
「イフガオの棚田」を視察し、農業遺産の現状や課題について理解を深めました。

1/13 サークル「金沢大学能登見守り・寄り添い隊『灯（ともり）』」が、石川県健民運動青少年ボランティア賞を受賞
1月8日には「1・17防災未来賞『ぼうさい甲子園』」で、優秀賞を受賞しました。
P20に関連記事

1/23 アドバイザリーボード委員会を開催
FSO重点研究プログラムの研究成果を発表し、テニュア・トラック制度について意見交換が行われました。

DATA NOTE

交流協定

2011年

10月
アメリカ・イリノイカレッジと大学間交流協定を締結

中国・北京大学と大学間交流協定を締結

12月
ベトナム・ホーチミンシティ人文社会科学大学と大学間交流協定を締結

中国・上海対外貿易学院と大学間交流協定を締結

武克敏校务委員会主席（左）と中村学長（右）

2012年

1月
アラブ首長国連邦・シャルジャ大学と大学間交流協定を締結

シャルジャ大学訪問の様子

その他連携・協定

2012年

1月
小松市との連携に関する包括協定を締結

小松市における課題解決、地域活性化や本学の教育・研究及び地域連携の一層の発展が期待されます。

和田小松市長（左）と中村学長（右）

2月
北陸電力株式会社と産学連携の推進に関する協定を締結

受賞

2011年

11月
平成23年秋の叙勲

瑞宝中綬章（教育研究功労）
・清水建美　名誉教授
・松村文夫　名誉教授

瑞宝単光章（看護業務功労）
・徳田説子　元看護師長

平成23年度医学教育等関係業務功労者表彰

・山﨑秀一　医薬保健研究域技術専門職員
・吉谷久子　附属病院臨床検査技師

附属高等学校の荒木重治教頭（副校長）が、平成23年度教育者表彰を受賞

2012年

1月
附属特別支援学校の山田富美主幹教諭が、平成23年度文部科学大臣優秀教員表彰を受賞

研究・教育実績

2011年

10月
文部科学省「リサーチ・アドミニストレーター（URA）を育成・確保するシステムの整備」実施機関に選定

研究を円滑に実施するための専門職の人材を育成し、研究推進体制の充実強化を図ります。

科学技術振興機構（JST）「戦略的創造研究推進事業先端的低炭素化技術開発（ALCA）」に採択

平成23年度新規研究開発課題 バイオテクノロジー

研究代表者
理工研究域自然システム学系・高橋憲司准教授

研究開発課題「イオン液体とラジカルを利用したリグノセルロースリファイナリー」

医薬保健研究域の櫻井武教授、三枝理博准教授が、米国学会誌『Journal of Neuroscience』に論文掲載

哺乳動物の脳に「腹時計」が存在し、欠損すると餌を適切なタイミングで摂食できなくなることを解明しました。今後、肥満や生活習慣病の新たな予防対策が期待されます。

2012年

2月
理工研究域の前田勝浩准教授が、トムソン・ロイター「第3回リサーチフロントアワード」を受賞

卓越した先端研究領域において活躍・貢献が認められる研究者として、日本の研究機関所属の研究者16名の一人に選出されました。

受賞テーマ「らせん構造制御を基盤とする機能性高分子の開発」

左から，江崎玲於奈氏（ノーベル賞受賞者），前田准教授，長野理事（研究・国際担当）

3月
理工研究域の生越友樹准教授が、平成23年度日本化学会・第61回進歩賞を受賞

受賞テーマ「新規環状ホスト分子 Pillar[5]arene を基にした超分子材料の創成」

医薬保健研究域の石橋弘行教授が、平成24年度日本薬学会賞を受賞

受賞テーマ「ラジカル環化反応を基盤とするアルカロイドの合成」

EVENT CALENDAR イベントカレンダー

お気軽にご参加ください

★マークはサークルのイベント。（　）は開催場所です。
＊マークは金沢大学サテライト・プラザで開催します。
特に明記がないものは金沢大学角間キャンパスで開催します。

3月

6 附属高等学校卒業式
7 附属幼稚園修了式
8 前期日程 合格発表
9 附属特別支援学校卒業式
10 人間社会学域学校教育学類音楽科第60回卒業演奏会（石川県文教会館）
10 ミニ講演「格差社会を考える−政治経済の視点から」＊
10 宝生会能楽発表会（石川県立能楽堂）★
12 一般入試 後期日程
12 附属中学校卒業式
13 附属小学校卒業式
16-18 第2回子どものこころサミット（附属病院，金沢21世紀美術館）
17-24 人間社会研究域フレスコ壁画研究センター写真展＆国際講演会（しいのき迎賓館）
22 後期日程 合格発表
22 学位記・修了証書授与式（いしかわ総合スポーツセンター）

学位記・修了証書授与式
日時／3月22日（木）開式10:00
場所／いしかわ総合スポーツセンター（金沢市稚日野町北222番地）

4月

5 履修ガイダンス
6 オリエンテーション
7 入学宣誓式（いしかわ総合スポーツセンター）

入学宣誓式
日時／4月7日（土）開式10:00
場所／いしかわ総合スポーツセンター（金沢市稚日野町北222番地）

9 前期授業開始
9 附属小学校・中学校・高等学校・特別支援学校入学式
11 附属幼稚園入園式
21 ミニ講演「風力と水力エネルギー利用技術の現状と課題」＊

5月

25 附属中学校研究発表会
26 ミニ講演「眠りをあやつる脳のしくみ」＊
26 マンドリンクラブ富山大・金沢大合同演奏会（富山オーバード・ホール）★
27 開学記念無料法律相談（四高記念館）★
30 金沢大学創基150年記念式典（ホテル日航金沢）

6月

16 吹奏楽団サマーコンサート（金沢市文化ホール）★
23 フィルハーモニー管弦楽団サマーコンサート（石川県立音楽堂）★

8月

9・10 オープンキャンパス

KANAZAWA UNIVERSITY OPEN CAMPUS 2012
日時／8月9日（木）・10日（金）
午前の部／受付 9:30／開始 10:00
午後の部／受付 13:00／開始 13:30

13-15 夏季一斉休業

公開講座

4/20-8/17 漢方薬の使い方 〜病気にも未病にも〜 ＊
4/28 漢方の不思議を解く! Part 5：薬草・食草・毒草
5/12 城と歴史を活かしたまちづくり ＊
5/12-19 コードネームを使った簡単なピアノ伴奏講座 初級コース
5/12-6/16 がん研究の最前線 ＊
6/2-30 考古学の世界，世界の考古学 ＊
6/6-7/4 世界の音楽（帝国の音楽史）＊
6/23-8/18 子どもにとっての親の役割を考える
6/30-7/7 高校生から分かる法学・政治学の諸問題（第3弾）＊
7/14-16 ロマネスク期の絵画技法・モザイク画制作
8/10 調理の科学 ＊
8/10 心と体の健康−2012 ヒトの心を脳機能から見る
9/15-10/6 健康を創ろう
9/22-30 石川のキノコ学習会
10/3-11/7 地域を創造する ＊
11/8-22 大学の地域連携，新しい動き ＊
2/18-20 薬局見学・体験ツアー

地域の皆さまの生涯学習をお手伝いいたします。
http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/kaiho_c/kouza.htm

Acanthus 金沢大学広報誌 | アカンサス No.22

ぶらりキャンパスめぐり

金大生が
金沢大学ゆかりの場所を
紹介します！

Acanthusとは

古代ギリシャ・ローマに由来する植物で，和名を葉薊（ハアザミ）という。金沢大学校章のモチーフとなっていることから，キャンパス内施設に名称が使われるなど，長年にわたり学生や教職員に親しまれている。

［表紙写真］金沢大学資料館（角間キャンパス）

金沢大学の学術研究資料を収集・保存・展示しています。大学の博物館，文書館として，本学の歴史を語り継ぐ場です。加賀藩校「明倫堂」「経武館」の扁額なども展示。モデルは，サークル紹介に登場した吹奏楽団の皆さん。

2012年，
金沢大学は
創基150年。
先魁 共存 創造

金沢大学
創基150年

KANAZAWA UNIVERSITY 1862 1949 金沢大学

金沢大学の最新情報は
金沢大学ホームページからご覧いただけます。
http://www.kanazawa-u.ac.jp/

K-Dictionary
金沢大学の魅力を
230のキーワードから
紹介します。
http://www.kanazawa-u.ac.jp/k-dictionary/mobile/

Mobile Site
携帯サイトはこちら！
http://daigakujc.jp/kanazawa-u/

発行日 2012年3月1日
発　行 金沢大学広報戦略室 〒920-1192 金沢市角間町 TEL(076)264-5024 koho@adm.kanazawa-u.ac.jp
広報誌「アカンサス」の配布を希望される同窓会には有償で増刷いたしますので，所要数をご連絡ください。